

令和5年度幼稚園学校評価（中部幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価		評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	今年度も「心豊かでたくましい子供の育成」という教育目標を全職員が常に意識し、「元氣いっぱい 笑顔いっぱい 幸せいっぱい」の中部幼稚園をめざして、指導計画に基づきながら、地域の特性を生かした保育活動に取り組んだ。また、各種行事の後は必ず振り返りを行い、改善を図っていくようにしている。学級だよりや園だより、園長だより、発行やホームページの活用等により、園の思いや考えについて保護者や地域の皆さんに広く知っていただくよう努めた。	4	4	今後も、教育目標の達成に向けて、指導計画の見直しを怠らないに行い、より良い園経営が行えるよう着実に改善を重ねていく。また、各種行事や普段の園での種活動についても、実施後の振り返りを大切にして、その都度反省・見直しを行い、よりよい活動となるように努めていく。園の取組の様子やその意図について、各種便りやホームページ等を活用して積極的に情報発信し、園への理解を深めていただけるよう努めていきたい。	
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達から課題を捉えて保育を行っているか。	日々の観察や保護者からの聞き取り、職員間での情報交換等により、一人一人の園児の実態や課題を園全体で把握・共有し、幼児の多面的な理解に努めている。しかし、ブラジル国籍の園児が9名と年々増えてきており、言葉や文化の壁もあり、個別の対応が十分しきれない部分もある。外国籍対応の保育補助員力を借りながら、園児や保護者と円滑なコミュニケーションに努め、家庭と積極的に情報交換を行い、幼児理解を深めていきたい。	3	3	園児の様子や変化について、普段から職員間で気軽に話題とし、個々の園児の実態や課題について園全体での情報共有に努め、理解を深めていく。また、学級だよりや連絡帳、送迎の際の対話等の機会を有効に活用して、保護者と密に連携を図っていく。特に外国籍の園児については、園に在るポルトガル語が話せる保育補助員を中心に職員全員が意識して、言葉や文化の違いを職員全員で乗り越えているよう、引き続き努めていく。	
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	今年度は特別な支援が必要な園児が8名在籍している。対象の園児については、個別の支援計画を作成し、特別支援コーディネーターを中心に適時支援会議を開いて、職員間の情報共有に努めている。また、市の保育幼稚園課による巡回訪問指導の活用や、医療・福祉等の関係専門機関との連携を積極的に図りながら、専門的な立場から担任や補助者に対して指導・助言をいただいている。	3	3	特別な支援を必要とする園児に対して、特別支援コーディネーターを中心に、早めの情報共有を心掛け、保育幼稚園課指導員による巡回訪問指導を連携したり、妻川行政センターの保健師や医師等の福祉・医療の関係専門機関との連携を図ったりしながら、その子にとって適切な支援になるよう努めていきたい。また、年長児の保護者に対しては、小学校と密に連携して、特別支援学級の見学や担当との面談等も含め情報提供に努め、保護者の特別支援教育への理解を得ていきたい。	
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	今年度から直江地区が出雲市同和教育研究指定を受けられたのを良い機会と捉え、これまでの園の活動を人権、同和教育の視点から見直し、改善を図っていくよう努めている。挨拶や履物そろえなどのふるまいについても、人権の観点と結び付け重点的に指導している。また、園児一人一人の得意なことや良さについて着目したり、友達への思いやりのある関わりなどについて意識して取り上げたりして、人権意識が高まるよう指導している。外国籍の園児が多数在籍している本園の特徴を生かしながら、これからも一人一人を大切に保育に努めたい。	3	3	挨拶や履物そろえなどのふるまいや、早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣の定着については引き続き指導を行い、上達を認めていくことで、やればできるという成功体験を積み重ね、自尊感情を高めていきたい。また、異年齢の園児とのペア活動や外国籍の友達との心地よい関わりを通して、自分と同じように周りの人も大切にできる園児の育成に努めたい。そのためにも、教職員自身が常に人権についてアンテナを高く掲げ、研修を通じて互いの人権感覚を磨く努力を組織全体に広げていきたい。	
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	今年度はコロナ感染症も落ち着いてきて、園内外での行事を元に戻していくよう努めてきた。各種行事の目的を明確にし、それらへの取組を通じて園児の成長の機会を保障し、豊かな感性やたくましい体を育むようしている。季節の変化や地域の特色を生かした多様な行事に取り組むことで、園児一人一人が心身共に大きく成長することができたと感じている。特に、今年度全員で妻川学校給食センターに見学に出かけたことは、好き嫌いをせずに食べたり、給食を作った方への感謝の気持ちを育てたりするのに、食育の面からも有効であった。	4	4	感性が豊かで柔軟な幼児期において、多様な行事を経験することは園児の健やかな成長と、生涯にわたる心身の基盤づくりにとって欠かせないという信念のもと、それぞれ行事のねらいを明確にして、実施していきたい。また、各行事の実施後の振り返りを大事にして、やりっぱなしで終わることなく、よりよい内容・方法となるよう改善を着実に重ねていきたい。	
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	今年度も全園児で小学校の体育会の見学に出かけ、小学生の頑張る姿を見て、小学生への憧れや小学校への期待を膨らませることができた。特に年長児は「保幼小交流の日」や就学時健診、一日入学等を通して、小学校入学への見通しを持って、不安を和らげることができた。また、年長児は自分たちで育てたさつま芋を焼いて小学校に届け、小学校の先生方に喜んでもらえる体験もでき、とても嬉しそうであった。	3	3	今年度はコロナ禍も落ち着いてきて、小学校との交流も復活してきた。幼稚園では、小学校へスムーズにつなげていくことを意識して日々保育にあたりながら、本園は立地的にも小学校のすぐ隣にあり、交流を進めるのにも恵まれているので、さらに工夫しながら交流活動を深めていきたい。また、中学校区の保幼小中の連携についても、連携推進委員会が計画を立て、全体研修を復活させることができた。今後は、直江地区の指定に合わせ、人権・同和教育について中学校区で情報交換を行い、指導の効果を上げていきたいと考えている。	
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保護者には竹取や餅つき、花壇の苗植え、夏休みの奉仕作業等に参加して、園の運営を助けていただき感謝している。また、地域のお年寄りや敬老のはがきを書いたり、直江や久木の祭りで作品を展示したり、歌の発表をしたりして、地域に貢献することができた。久しぶりに開催された地区民体育会でも、年長児がダンスを披露し、地域に元気を届けることができた。未就園児教室も定期的に開催し、地域の子育て支援の一助として、また減少しつつある園児数の歯止めにも効果を出していると感じている。預かり保育についても、今年度より長期休業中の弁当を業者に注文できるようにして、保護者の負担軽減を図るようにした。	4	4	園児数の減少や共働き家庭の増加など、PTA活動への参加について厳しい状況となってきたため、今年度は保護者の考えを取り入れ、できるだけ負担の少ない形や方法になるよう改善を図ってきた。今後も引き続き、内容等を吟味し、持続可能なPTA活動の在り方を探っていく。また、普段お世話になっている地域の皆さんに少しでも恩返しができるよう、今後も地域行事への参加に努めていきたい。特に未就園児教室の開催については、地域への子育て支援や幼稚園教育のPRの場となる機会と捉え、楽しく魅力的な内容を中心掛け、入園児の増加につなげていきたい。	
	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	どの学級でも研究保育を実施し、互いの保育を公開し合っており、幼児が自ら継続して遊べるような環境構成と教師の援助の在り方について研究を深めることができた。また、市の保育幼稚園課から指導員を招いての園内研修も実施して、専門的な立場から指導・助言をいただくことで、新たな気づきや課題も見つかり有意義であった。	3	3	子どもたちの健やかな成長を保障していくためには、我々教職員の不断の研究と修養を欠かすことはできない。そのためには、園内で定期的な研修会をはじめ、外部講師を招いての研修会や外部に出かけての研修も積極的に、全教職員の資質向上に努めていきたい。特に、今年度と同様に本年度も人権・同和教育に焦点を当てて、子供たちの自尊感情と周りの人とのよりよい関わりを深めていくよう、環境構成と教師の援助の在り方について研修を深めていきたい。	
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	今年度は15名の職員数で、「チーム中部幼稚園」として互いに長所を生かし、足りないところを補い合いながら、日々協力し合っており園務を進めるように努めてきた。また、定期的な園長と各職員が一人ずつ面談を行い、悩みや問題がないか把握し、それらを一人で抱え込むことがないよう気を付けながら、常に組織としてみんなで力を合わせて対応していくよう心掛けている。	4	4	限られた職員体制の中で、組織として最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、普段から職員間の円滑なコミュニケーションを心掛け、お互いの長所を生かし、短所をカバーし合える協力体制を築いていきたい。園務分掌については、特定の個人に業務が偏ることのないよう、適切な分担と適材適所を心掛け、負担の平準化と組織の活性化を図りたい。	
	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	今年度は、火災や地震に対する避難訓練や警察の方による交通安全教室だけでなく、不審者侵入や声掛け事案に対する防犯教室と、緊急時の園児の保護者への引き渡し訓練も実施することができた。また、地域の方から寄贈していただいた防犯カメラを園舎の南壁面に設置したり、フェンスに「関係者以外立入禁止」の札を取り付けたりして、防犯への備えを強化することができた。	3	3	避難訓練や交通安全教室、不審者対応防犯教室、保護者への園児の引き渡し訓練など、毎年の積み重ねを大事にして、「自分の命(健康)は自分で守る」という基本の心構えが着実に身につくよう、根気強く指導を継続していきたい。また、コロナやインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症対策も怠ることなく、うがい、手洗い、換気などの基本的な対策を徹底していきたい。	
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月の職員による園舎・園庭の安全点検や、市の巡回による施設・遊具の点検、消防による消火施設・設備の点検等を通して、改善・整備に努めている。今年度は年長クラスに遮光カーテンを取り付けたり、テラスのコンクリートのひび割れを補修したり、遊戯室のサッシ窓を取り替えたりした。今後も市と相談しながら、緊急性の高いものから順次修繕に取り組んでいきたい。	3	3	市の財政が厳しい中ではあるが、子供たちの安全を最優先と捉え、安全で過ごしやすい施設設備となるよう、引き続き保守管理に努めていきたい。また、園内の毎月施設・設備の安全点検を徹底すると共に、必要に応じて保育幼稚園課や教育施設課へ情報を提供して、しっかりと要望を行い、園児の安全を確保していきたい。また、園庭の除草や剪定作業等もこまめに行い、環境美化にも尽力していきたい。	

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する